

梅の仮名遣ひ

会津八一

梅咲ぬどれが梅(むめ)やら梅(うめ)ぢややら

蕪村

此句の前書につきては、既に聊か述ぶる所ありき。句は又珍らしき事を詠みたるものかなと吾も人も感じ合へりしに、やがて村が独創の趣向にあらずと知りぬ。

鶯に問はめや梅の仮名遣ひ

來山

梅の仮名、上古は「つめ」とかきたりしを定家の一流「むめ」と書き習ひてより、後世屡惑ひしを來山先づ斯く吟じたるなり。蕪村は之を知つて作りしか將た否か。山が句織細濃艶、村が句磊落滑稽、同趣に出でて而も相妨げず。享保元年蕪村生れ、來山没。